

独立歩兵才五九二大隊 略歴

陸軍少佐 藤津子々吉

年月日	概 要
昭和三二	<p>編 隊 名 秋水才一七八五二部隊</p> <p>編 成 軍令陸甲才十八号に依り、中華民國江西省南安県南安に於て編成を完結す (編成人員七七五名)</p> <p>部隊行動</p> <p>一、南安附近の警備</p> <p>編成完結後、自昭和三二、六月、至昭和三二、七月、南安附近の警備</p> <p>二、南京への転進及停進命令</p> <p>加一三一師団の南京への転進に伴い歩兵才九二旅団命令に基き 南京附近の警備を徹して同地出發旅団主力と共に南京に向い前進中九江に於 て停進命令を受領す。</p>
昭和三七	

1888

3. 安徽省池州附近の警備

行動中安徽省池州附近の警備を命ぜられ、陽三月九日、同地に到着、
九一三前警備隊独立歩兵中隊田の一隊を引継ぎ同地附近の警備に
任す

4. 安徽省安慶への味結

歩兵第九旅団命令に基き、中隊を池州に残置し、主力は一月二七日同
地出發、一月二十九日安慶に味結

残置する中隊は引継ぎ同地の警備に任じ、あししか命令に依り一月三十一日
警備を中口や四回軍才百五十師、や五八六団に移譲し、翌二三日池州出發
同日二十八日安慶に到着

遂に大敵全兵力の安慶味結を完了せり

5. 武漢解除

中国第四八軍に依り陽三月二十六日安慶に於て武漢を解除せる

6. 安徽省望江県暗殺湖匪築堤作業

日 文 兵 記

第百三十一師團 独立歩兵中隊五九三大隊 略

年月日	概 要
昭和三十八年三月	<p>部隊名 岩本支隊中隊六大隊（軍隊区分） 中隊十一野戦補充隊中隊一大隊 （槍一二五一部隊）</p>
昭和三十八年三月	<p>中隊三十一師團 独立歩兵中隊五九三大隊 （秋水一七八九三部隊） 部隊長 陸軍少佐 平井 憲一</p>
編成完結状況	<p>岩本支隊中隊六大隊は中隊十一野戦補充隊中隊一大隊の主力を一九六三隊 中に集結編成に着手し、同日八日 編成完結人員九三九名 独立歩兵中隊五九三大隊は前項中隊六大隊を（軍令陸甲一八）二〇、三、二五附 三八 江西省遂川に於て改称し、全年四月二〇日贛東に於て中隊三十一</p>

師団の創設に伴い同日編成完結

編成完員一五五〇名現員七四〇名

同年五月一日より 補充人員初年兵一八〇名を数次に編入更に終

戦后武漢長沙地区に敵在延及中の補充要員初年兵を函次掌握するの状況

に在り統中行軍中各都新戦兵站等に在在しある約二〇〇名の初年兵

人名茲輸入にて掌握極めて困難なる状況なりしも其大體は函次掌握、南

京に於け掌握するを得たり。

行動の概要

昭五、六、七、七

河南地区残敵掃蕩漢口に前進

漢口到着時暑熱及マラリヤ患者七〇余名絶出し

臨半同地病院に入院す

湖南省醴陵に前進

長沙街道の新戦場を轉り夜行軍に依り急進し長沙進出時落伍者絶出約四十

名同地病院に入院生花不明者名を生す

五、七、八、八、八

1892

八二七	九六	九一七	九一六	九一九	九三三 九三三	三三二	三三六 七二二
醴陵周旭昇減作戰に參加死傷將校以下二十余名	湖南省昭陵へ転進	朱亭附近掃蕩戦	朱亭附近警備及戦斗	江西省蓮花永新地区我激掃蕩戦参加	江西省遂川警備隊主力の前進着戦に在り此の求攻を停止した戦数日我傷二十数名を生ず 十二日撤退贛東に前進す	贛州地区警備	南京戦進作戦
二〇、七、一一 贛州出發は一回日南昌附近に於て待戦受命終戦兵力集結の目的を以て九江に至る安慶に前進九一〇且大公館に到着							
防務並に集結							

4081

7790

1893

三四六
七四号

958 主力は安徽省歐泉匯地区の財務を交代

一、二六日放田主力は安慶に集中五九三大隊は池州地区の財務を兼す、二、
三、中国軍四十四軍一六〇師に財務を引継一、二、一安慶集中宮に集結す、

故裝を解除す、

復員

二、一、一、一 安慶集中宮に集結復員業務を開始す、

二、一、三、三 内地飯糧の目的を以て水路安慶発、三、一八上海に到着兵船が

大兵站指金に入る、

四、一、一、一 欽田找橋乘船出帆一、二日和歌山、田辺港上陸

復員式完了

独立歩兵ヲ五九四大隊畧歴

年月日	要
昭和三〇	<p>大隊は軍令陸甲ヲ十八号に據リカ四丁師團歩兵ヲ二百三十九連隊駐出者及歩兵 ヲ二百三十六連隊駐出者ヲ基幹とし廣東省曲江縣詔廿に於て三二五より編成に 着手し四一級編成を完結す</p> <p>昭三〇四二二〇 廣東省曲江縣詔廿に於てカ百三十一師團獨立歩兵ヲ五九四大 隊の編成を完結す</p> <p>及カ二〇の二團に亘リ初年兵及し概收兵員は充實す</p> <p>編成完結時大隊の編成左の如し</p> <p>編成</p> <p>本部一 大隊長陸軍少佐 田中真次郎</p> <p>歩兵中隊五(カ一乃至カ五中隊)</p> <p>機関銃中隊 一</p>

1895

歩兵砲中隊

通信隊

人員馬匹

縮減定員

一五〇名外に増加人員三〇名

馬匹

一〇〇頭

縮減定額初年兵 受領有

人員 一三一七名

馬匹

なし

裝備

新編旅の爲兵器の未到着多く又重火器等は旧制式品にして威力乏しく又被服は長期行動の爲甚しく不良なり

警備

假縮減定額と同時に師団長直轄として部州附近の警備に任じ初年兵受領し人員充實と共に旅団長の隷下に復帰し九月一五日南雄に至り六月二九日迄

昭三〇

中支外記

い

い

い

い

722

1896

同地附近の警備に任ず

南京への転進及停戦命令

大塚は南京へ転進すハシ師団命令に基き

南雄出發 韶州より粵漢鉄道に沿う地区を前進中

湖南省岳州に於て停戦に關する命令を受領す

大塚に咸寧附近に集結の命令を受け八月二十九日汽車勸送により岳州出發

同日一日咸寧県横橋に集結す

大塚に九江附近に集結を命ぜり八月三十一日横溝橋出發金牛嶺一 大冶一

瑞昌を至て九月一日九江に到着す

大塚に安慶に集結を命ぜり九月三 九江出發 湖口一彭沢一東流一六合館

道を安慶に白川前直中湖口に於て湖口一彭沢一河の警備を命ぜり九月一

を以て湖口に主力を以て彭沢に位置し該地附近の警備に任ず

安徽省安慶への集結

昭云六二九

八一八

<p>四、三五 四、二七</p>	<p>投函業務実施の爲安渡へ集結を命ぜられ 中国側に警備を要請し警備地出発 安渡に集結す。</p> <p>武装解除 十一月中旬頃安渡に於て武装解除せらる。</p> <p>望湖泉沼沼築堤作業 実施</p>
<p>昭三、三三 三、三六</p>	<p>中口加田ハ軍命令に依り 大隊は三中队を編成し 望湖の築堤作業に任す。</p>
<p>昭三、三四 三、二七</p>	<p>上海へ集結 揚子江航行船に乘船し安渡へ出発 上海に到着す。</p> <p>復員 昭三、三三、夕集結</p>

昭三、四、一	三三〇	三二七
二日市に於て役員定結	為勢整理の爲大隊長以下二名裁留し他は三、三一 日除隊及召集解除す。	上海出發す。

72250

1899

第三百三十一師団歩兵中隊九十五被團司令官の二部隊

陸軍大尉 藤井秀男

年月日	概 要
昭三、三、二五	<p>行動及其日時</p> <p>上海に於て部隊主力と分離上海市、市政府に於て検査、受検右直に飯田橋に前進</p>
三、二六	<p>リハティノ35号に乗船す、 ワセ、ワセ出帆</p> <p>二九日博多港外着三〇一〇日入港</p> <p>下船引越ぎ検査及検査受検後買式終了佐野京素に集中す、</p>
三、	<p>一徹申 是天々京素に致務整理者は反和置軍後員本部に向日前進す、</p> <p>致務整理了す、</p> <p>人員二分</p> <p>増援四名 准士官二名 下士官 二八名 兵七八名</p>

中支外誌

い

1

2

3

6081

1900

牛交外

興動状況等に戦時名義の処理状況
該当事項なし
輸送同の事故
該当事項なし

8000

727

1901

昭三、三、一三

昭三、三、二五
昭三、四、二〇

編成

才百三十二師団歩兵才九五波田司令部署へ

軍令陸甲才十八号に據り

中華民国江西省贛州に於て左記の部隊を以つて編成を完結す

左記

部隊名	部隊長官氏名	編成完結年月
波田司令部(含通信)	陸軍少将 岩本高次	昭三、三、二五
独立歩兵才五九一大隊	陸軍少佐 北原若男	"
" 才五九二 "	陸軍少佐 財津子吉	"
" 才五九三 "	" 中井 義一	"
" 才五九四 "	" 田中 貞次郎	昭三、四、二〇

警備

江西省贛州圍攻の警備に任ず

2280

1902

昭五七、一二

南京への転進及停戦命令

南京へ転進すべし命令に基き、江西省贛州を出発南京に向い前進中九江に於いて停戦命令を受領す。

安徽省安慶附近人の集結

核団は主力を以て池州附近へ集結し安慶―池州間の警備を命ぜられ、

同地域に到着前警備部隊、独立歩兵第6旅団の配備を踏襲し該地の警備に

任す。

九一七

安慶への集結

核団は中国第四八軍の命令に基き歩兵一大隊へ独立歩兵第9大隊、1-

連隊、及独立歩兵第9大隊の一部を江南警備隊として池州段家堰大公

館等に残留し主力を以て

又安慶に集結す。

江南警備隊として残留せる歩兵一大隊は中国第三战区警備隊に警備隊の進

出に伴い該部隊に警備の責任を移譲し

九二九

一三一

安慶に集結被団全力の集結を完了す

武装解除

昭三、三六

武装を解除せりる

安徽省望江県臨塔湖築堤作業

中口才田八軍命令に依り被団は一連隊（連隊長少佐財津子之吉以下若干名）

を編隊し

安徽省望江県臨塔湖の築堤作業に任ず

昭三、三六
三二、二六

上海集結

先行船に乗船七二乗船ニ安慶出発 揚子江を下流ニ上上海に到着す

復員状況 一、司令部 二、隷下大隊

昭三、三四

~230~

1904

生表外

昭三、四、三

を以て残りの整理者三名を除き司令部全員隊隊へ召集解除す。

司令部の 主力	昭三、三、三一	四、三	陸軍少将 岩本高次以下九名
司令部の 一部	昭三、三、二六	昭三、三、三〇	将校以下一三〇名
隊	上海出發	捕刃上陸 隊(召解)	兵 力

部	隊	名	除隊(召解)年月日	摘	要
		独立歩兵第五九一大隊	昭三、三、三一		残りの整理者を除き隊隊召集解除
		〃 第五九二	〃		〃
		〃 第五九四	〃		〃
		〃 第五九三	〃		假借史者整理の爲遅延

兵力
少将岩本高次以下一六三名(七七九 戦歴三入(昭三) 現在百三十一名)

0081

731

1905

独立歩兵ヲ九五六隊累テ

陸軍大尉 北村 突印彦

年月日	概 要
昭三、三、二五	<p>編成</p> <p>大隊は軍令陸甲ヲ十八号により、江西省贛州に於て編成し同日編成を完結す。</p> <p>大隊長 陸軍大尉 北村 突印彦</p> <p>警 備</p>
昭三、三、二六	<p>広東省韶州に移駐し歩兵ヲ九六旅團長ノ部下に入る。</p>
昭三、三、二七	<p>広東省韶州圍城ノ警備に任ず。</p>
昭三、三、二九	<p>南京へノ転進及待戦命令</p>
昭三、三、三〇	<p>大隊は南京へ転進すへき師團命令に基き、韶州を出発、南京に向ひ前進中湖</p>
昭三、三、三二	<p>北省官埠橋に於て待戦命令を受領す。</p>
昭三、三、三三	<p>軍令陸甲カ一六号により復員下令</p>
昭三、三、三六	<p>安慶附近への集結</p>

1906

日ノリ 18

九二二

大隊は安徽省安慶附近へ乗船し東流附近の警備を命ぜらる。
東流に到着。独立歩兵が大隊より同地の警備を継承す。
大隊は師団命令に基き中口が三隊に警備隊の進出に伴い東流附近の警備と
之に授けらる。

五二九

安慶に集結す
武装解除

大隊は十一日十日中口陸軍力四八軍により武装を解除せらる。

上海集結

三三八

船舶により安慶出発 一二日上海に到着す。

上海出港内地陸

三二四

大隊長以下七八五名 リバティーウに依り上海を出發す。

三二八

南京港に上陸す

除隊 (召募解除)

~223~

1907

三二八

復員式を実施し、残りの整理者三名の外全員除隊、八召集解除

三二八

兵力

除隊召集解除

七九五名

残りの整理者

二名

入 院

一四八名

喪 留 者

一名

処 刑 者

二名

生死不明者

五名

斬 首

二二五名

死 致

一六一名

計

一三三九名

(外に編成前死没者

五九名)

7081

734

1908

第百三十一師團歩兵第九六旅團司令部裏

年月日	概												
昭和三〇	<p>編成</p> <p>軍令陸甲第九十八号により、中華民國広東省曲江梨曲江に於て左記部隊を以て編成を完結す。</p> <p>左記</p> <table border="0"> <tr> <td>旅團司令部 (含七通信班)</td> <td>陸軍大佐 海 福 三千雄</td> </tr> <tr> <td>独立歩兵第九五大隊</td> <td>陸軍中尉 北 村 突卯彦</td> </tr> <tr> <td>〃 第九六大隊</td> <td>〃 井 上 良 雄</td> </tr> <tr> <td>〃 第九七大隊</td> <td>〃 永 原 佐 吉</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(七、二六以降大尉 三尾實三)</td> </tr> <tr> <td>〃 第九八大隊</td> <td>陸軍少佐 黒 領 政之助</td> </tr> </table>	旅團司令部 (含七通信班)	陸軍大佐 海 福 三千雄	独立歩兵第九五大隊	陸軍中尉 北 村 突卯彦	〃 第九六大隊	〃 井 上 良 雄	〃 第九七大隊	〃 永 原 佐 吉	(七、二六以降大尉 三尾實三)		〃 第九八大隊	陸軍少佐 黒 領 政之助
旅團司令部 (含七通信班)	陸軍大佐 海 福 三千雄												
独立歩兵第九五大隊	陸軍中尉 北 村 突卯彦												
〃 第九六大隊	〃 井 上 良 雄												
〃 第九七大隊	〃 永 原 佐 吉												
(七、二六以降大尉 三尾實三)													
〃 第九八大隊	陸軍少佐 黒 領 政之助												

1909

然以共人員は規定の三分の二にも達せし馬匹及裝備も其の大部を缺き其の
後鋭意補充に努められたるも華中方面よりの補充意の如くならず初年兵約
六百名の補充を受けしに止む

警備

1. 編成を完結するや廣東省肇陽瓊及曲江界内粵漢鐵道沿線附近に分駐して
警備に任し旅團司令部は樂昌に位置す

2. 師団は華中方面へ転進の命を受け其の主力行動を開始せるも旅團は交代
部隊未着迄は前任務を続行する為主力を以て海橋支隊を編成(独立歩兵
オ五九五大隊欠師団砲兵、工兵輜重野戰病院、病馬廠の一部を附す)に
引籠り同地附近の警備に任し旅團司令部は曲江に移る

南京への転進及待戦命令

1. 海橋支隊は南京へ転進して編成を完結すへき師団命令に基き交代部隊到
着に伴い昭宣ハニーハニーの間に広東省樂昌縣坪石附近に兵力を集結す

昭宣七

2. 八二五 廣東省湖南省廳出発 粵漢線に沿い前進す。

3. 八二八 湖南省探報良田附近にて傳説命々を接収す。

4. 旅団前進は前途の如く作戦行動に非ざるを以て尔行粵漢線に沿う地区を

前進湖北省の寧泉黄濟橋に到る。

5. 横溝橋に於て安慶集結の師団命令を受け湖北省大名界大江九江を至て敵

田司令部は一〇、二〇 其の他の部隊は一〇、二六 安慶に至る。

安慶集結

1. 安慶集結と共に海福支隊の編成を解き独立歩兵中隊九七大隊を安慶対岸

大公館に配置し尔余は直ちに安慶日本憲兵中隊三隊中隊に入る。

2. 一〇、三〇 独立歩兵中隊九七大隊安慶中隊三隊中隊に入り諫下に復帰す。

3. 一〇、二七 大公館に在りし独立歩兵中隊九七大隊安慶中隊三隊中隊に入り敵

田全部の集結を完了す。

武装解除

中口軍中隊八軍の命令に依り二、三、五に武装解除を受く。

服 役

1. 安慶沖三條中宮附近安慶城外の清掃道路修築安慶碼頭貨物揚陸船積作業に任ず。

2. 昭三、一三より一部(三百名)を安徽省望江縣塔築堤作業に派遣す。
一三ニ帰還す。

上海集結

1. 昭三、三八 敵田司令部は江寧丸に乗船し獨立歩兵中隊九七大隊及獨立歩兵中隊九七大隊の一部(揚子江左下流三一二)上海に到着す。

2. 獨立歩兵中隊九七大隊の主力は歩兵中隊九五敵田長の指揮に入り
三 四 突發隊上海に集結す。

3. 獨立歩兵中隊九七大隊並に獨立歩兵中隊九八大隊は二月二七日安慶発去
上海に集結を完了す。

復員状況

1912

中支外 187

司令隊の一部（川島大尉以下一十九名）は 三、二五 上海発、二八日 滬多に
 上陸隊へ召集解除す。

主力（海軍少將以下七名）は 三、三一 上海発、四月三日 滬多に上陸後務整
 理者二名を除き隊へ召集解除す。

1101

779

1913

陸三〇、三二五
及四二〇

編成
才百三十一師團歩兵才九五旅團司令官部隊

軍令陸甲才十八号に依り、中華民國江西省贛州に於て左記部隊を以て編成
左完結す

左記

警備

部隊名	部隊長官氏名	編成完結年月日
旅団司令部 (含通信)	陸軍少將 岩本高次	昭三、三二五
独立歩兵才五九一大隊	少佐 北原岩男	〃
才五九二	少佐 縣津子之吉	〃
才五九三	少佐 中井憲一	〃
才五九四	少佐 田中貞次郎	〃 四二〇

740

1914

昭和三十三
七一一

昭和三十三
七一一

九一七

江西省贛州固圉の警備に任ず

南京への転進及停戦命令

南京への転進すべし命令に應ず

江西省贛州を出發南京に向い前進中九江に於て停戦命令を受領す

安徽省安慶附近への集結

固圉は主力を以て池州附近へ集結し安慶一池州間の警備を命ぜらる

同地域に到着、前警備部隊は立歩兵ヲ大隊用の配備を踏襲し該地の警備に任ず

安慶への集結

固圉は中口ヲ固圉八軍の命令に基き歩兵一大隊（独立歩兵ヲ五九三大隊）一

部欠し及独立歩兵ヲ五九二大隊の一部）を江南警備隊として池州攻家堰大

公館等に配置し主力を以て一、二九夕、安慶に集結す

江南警備隊として配置せる歩兵一大隊は中口ヲ三战区警備隊の進出に伴い

該部隊に警備の責任を移譲し一、二九夕、一安慶に集結旅団全力の集結を完了す

1915

昭三、三、六

武装解除

武装を解除せらる。

安徽省望江県脂塔湖築堤作業

中国河田八軍命令に依り旅団は一々聯隊へ聯隊長少佐賈津子之旨以下若干名を編成し

安徽省望江県脂塔湖の築堤作業に任ず

上海築堤

段行船に乗船七に乗船し安慶出發

揚子江を下流三、一七上海に到着す

復員状況

1. 司令部

2. 隷下大隊

昭三、三、三、六

昭三、三、四

1916

昭三、四三

内地帰還時主力と分離し復員した一部々隊の略号は省略す。

部 隊 名	除隊(召解)年月日	摘 要
独立歩兵 才五九一大隊	昭三、三、三一	残の整理者を除き除隊召集解除す。
才五九二		全
才五九四		全
才五九三		假病患者発生の帰還延

残の整理者三名を除き司令部全員除隊(召集解除)す

旅 団	上海出発	博多上陸除隊(召解)	兵 力
司令部の一部	昭三、三、二六	昭三、三、三〇	将校以下百拾名
主力	昭三、三、三一	昭三、四、三	陸軍少将岩本高次以下九名

中支隊 18

三二六
三二八

昭三三三二

九一

江蘇省上海に復員帰還のため前送

將校	准士官	下士官	兵	計
四〇名	八名	一四四名	二二九名	一、三三一名

上陸年月日

場所

佐世保港場に於て復員式挙行後除隊召喚解除

復員完結

1919

独立歩兵才五九七大隊累丁

年月日	概要
<p>昭五、三二五 四二〇</p>	<p>大陸は軍令陸甲ヲ十八号により、江西省贛州に於て編成を令せられ廣東省樂昌に至り、其の編成を完結せり。</p> <p>大隊長 陸軍中尉 糸原 佐 吉</p> <p>編成完結と共に才九大隊田長の部下に入る。</p> <p>警 備</p> <p>広東省樂昌附近の警備に在す。</p>
<p>昭五、六二八 八七</p>	<p>大隊長交代</p> <p>前任大隊長 陸軍中尉 糸原 佐 吉 才一三一師團司令部附となり同日附新任大隊長 陸軍大尉 三尾 實三着任せり</p> <p>南京への転進及停戦命令</p> <p>八大隊は南京へ転進すべし師團命令に基き 樂昌を出發す</p>
<p>八八</p>	

1920

日支分

八一五	ふ湖南省郴県に到着同地附近の警備に任す
八一七	郴県に於て停戦命令を受領す
八一〇	郴県出發、衡陽、長沙、新市、長安を至る一〇、一、横溝橋に到着す
一〇、三	横溝橋發大治九江を至る
五、三、六	安徽省安慶對岸大谷嶺に到着
二、七	安慶に集結を完了す
二、二	武枝解除
大隊は中口陸軍や田八軍により武枝を解除さる	
三、三、八	上海集結
大隊は一部を以て、船舶により安慶出發	
三、二	上海に到着せり
上海出發内地に上陸	
三、三、三〇	一八、一、二一號により上海出發

747

1921

三三一

博多港に上陸す。

大隊長以下七〇四名

休隊（召集解除）

復員式を実施し残務整理者三名の外全員除隊（召集解除）せり。

三三一

兵力

1. 除隊召集解除者 七十三名（嶺籍兵一二名を含む）

2. 残務整理者 三名

3. 入院患者 一四五名

生死不明者 九名

戦傷者 二八二名

死没者 二三名

計 一三九〇名

~728~

1922

支川 109

独立歩兵才五九八大隊 累丁

年月日	概況
昭三三三三 三三一	<p>軍令陸甲才一八号臨時編成下令 編成基幹要員は云東省羅蒙洞に集結し陸軍少佐黒領政之助の指揮下に入る同 日集結編成要員六一三名</p>
四七	<p>樂昌洞地区肅正討伐参加のため羅蒙洞出発</p>
四二〇	<p>才百三一師團独立歩兵才五九八大隊編成完結す 大隊長 陸軍少佐 黒領政之助</p>
四二五	<p>昭一九年徵集幼年兵七〇〇名羅蒙洞に到着</p>
五五 五二 五九	<p>才一六乳源賦定作業に参加 才三六</p>
五三〇 八一四	<p>南印奥漢鉄道の警備</p>

1923

六二四	停戦詔書發布せりる
六一五	移駐のため廣東省樂昌県坪石出發
六一八	糧令陸甲ヲ百十六号に依り復員下令
六二二	停戦決定締結
六二六 六二五 六二五	安徽省懷寧県安慶着 安慶附近集結
三二六	内地帰還のため安慶出帆
三三一	上海出帆
三二五	博多港上陸
六一	復員完結

1891

250

1924

第百三十一師田砲兵隊畧年

年月日	概要
昭三四年三〇	部隊は中華民國湖南省衡陽縣衡陽に於て復編成后云東省曲江縣韶州に於て編成を完結す
五二五	編成人員九三九名にして將校下士官四五名兵八九四名あり
六二七	韶州附近の警備に任ず
六三八	部隊移駐の爲韶州出發
八一三	安徽省安慶着
三三三	復員の爲安慶出發
三三五	上海港出帆
三三八	佐世保上陸 同日 召集解除

1925

第百三十一師田工兵隊略丁

陸軍大尉 田淵正二

年月日	概 要
昭三、四一	軍令陸甲中十八号に依り衛陽に於て編成に着手
四三〇	軍令陸甲中十八号に依り編成完結（編成人員六百八十六名）
五八	部隊移駐の爲衛陽出發
五三〇	韶州到着
七一	部隊移駐の爲韶州出發
八一四	停戦詔書發布
八一八	軍令陸甲中一六号に依り復員下令
九二	停戦協定締結
九二四	安慶到着
昭三、二一六	内地帰還の爲安慶出發
二二〇	上陸着

1252

1926

中文
190

い

三一九	上海出帆
三三二	南京上陸
三三三	復員完結
復員完結時の人員	
六八六名	

753

1927

第百三十一師田工兵隊器厂 (留警) 秋永光七ハ大部隊

年月日	昭四四二〇
<p>編成 編成地 湖南省衡陽縣衡陽 編成機要</p>	<p>部隊はオ六十師田工兵隊を基幹とし幹部は主としてオ四十師田より兵はオ二七師田の初年兵を以て充当する予定なりレモオ四十師田よりの幹部の補充取止となりたる為編成時に於ける幹部は定員の二〇なりき兵は初年兵五〇〇名ハオ二十七師田より四年次兵一〇〇名にして百余名の欠員なりき後見習士官十三名の補充を得又自隊四年次兵の任官に依り暫く幹部を充塞せり器廠はオ六十師田の下中隊分のみにして極めて貧弱なりき</p> <p>一、渡友当初駐屯地廣東省曲江縣韶州</p> <p>衡陽に於て編成終結</p> <p>部隊器廠の爲衡陽出發</p> <p>龍州省</p>

1928

五三〇	韶州着
五三一	韶州附近警備
六一	部隊移駐の爲韶州出発
九一四	安徽省懐特県安慶着
昭三三六	内地帰還の爲安慶出発
三二一	博多上陸

1929

第百三十一師団通信隊略年

年月日	概 要
昭四二〇	通称号 歌水才一七八〇七部隊
	編成年月日
	編成地
	中華民国広東省曲江県韶州
	編成の概要
	<p>師団は才四〇師団通信隊並に電信科連隊の一部を基幹とし初年兵は才二十七師団より充当されたるも不足せり、通信器材は兵隊内の一部を寄賜に於て電話機の一部を才四〇師団より受領せるも極めて僅少にして通信在勢煙灰は不能の状勢なりき</p>
	渡更当初駐屯地
	廣東省曲江県韶州
	行動の概要

1930

中文外 191

昭三、四、五	於 露 冊 締 成 完 結
六、九	記 隊 現 駐 の 為 露 冊 出 発
九、六	突 徹 魯 安 慶 到 着
昭三、三、八	内 地 帰 還 の 為 魯 慶 出 発
三、一、二	上 海 到 着
三、二、一	" 出 発
三、二、四	博 多 上 陸

8601

757

1931

第百三十一師田垣通信隊要目

陸軍大尉 手塚 都夫

年月日	概況
昭三、四一	略す 軍令陸甲カ十八 号により中華民國安徽省江蘇韶州に於て編成に着手
四二〇	〃 〃 (編成人員三〇八名) 編成完結
六二九	部隊移駐の爲韶州出發
八一四	停戦詔書発布 軍令陸甲カ一一六号に依り復員下令
九二	停戦放棄締結
九六	安徽省安慶到着
昭三、三、八	内地帰還の爲安慶出發
三三三	上海到着

1932

日表内 19

三二一	上海出帆
三二四	南支上陸
三二四	復員完結
復員完結時の人員三三〇名	

7590

1933

第百三十一師團兵器勤務隊略歴

年月日	概略
昭和三十四年	<p>固存部隊名 第百三十一師團兵器勤務隊</p> <p>通称号 秋水一七〇九部隊</p> <p>編成年月日 中華民國広東省曲江県韶州</p> <p>編成の概要 部隊は沖二十軍並にアニエ師團隷下各部隊より、補充により編成定数より減数なり兵器は悉くアニエ師團より受領しその殆んど全部は中品品にして作戦行動は勿論、任務遂行に大支障を来せり</p> <p>渡支当初駐屯地 廣東省曲江県韶州</p>

1934

中支外 19

昭三、四より	行動概要
七一	於韶州縮成完結
九一〇	韶州反転北上のため韶州出発 安徽省懷寧縣安慶到着
昭三、三、四	復員還のため安慶出発（便船）
三一八	上海到着
三二七	上海出発
三三〇	博多港上陸 復員式完了
四	復員完結

第三百三十一師田兵器勤務隊恩賜 豫東、秋永一七〇九部隊

年月日	概	備考
昭三、四、一 四、二日	湖南省衡陽に於て編成に着手 編成完結	兵技曹長 (秋永興吉)
五、五	江西省贛州に於ての豫東隊離隊作業開始のため一師出發	兵技軍曹 (富山保)
五、六	河南省泌州に於て兵器製作作業のため工場開設	班長陸軍大曹 (員井武志)
六、四	江西省贛南附近の作戦に兵器修理班として一師參加	廠長陸軍大尉 小幡英 以下各
七、一	部隊は反轉進北上のため河南省泌州出發 一部兵力は歸田兵器部と共に師田兵器運送業務実施 (依列車自動隊)	技術曹長 技師軍曹

1936

